



小平市の概要

小平市は、東京都多摩地区の東北部、武蔵野台地にあり、都心から西に26kmの距離にあります。小平の歴史を見つめてきたケヤキ並木の面影が残る青梅街道が市の中央部を東西に貫き、これと並行して南に五日市街道、北に東京街道、新青梅街道が、さらに南北には府中街道、新小金井街道、小金井街道が通り抜けています。また、五日市街道にそって玉川上水があり、その沿道は緑の散歩道として市民に親しまれています。鉄道は、JR 武蔵野線、西武新宿線、西武国分寺線、西武多摩湖線、西武拝島線が通り、市内には7駅があり、市の境には3駅があります。

市の木・花・鳥



市の木 けやき



市の花 つつじ



市の鳥 こげら

名誉市民(昭和47年10月1日制定)

小平市名誉市民は、市民、または市に縁故の深い方の中から「広く社会文化の興隆に寄与し、卓絶した功績のあった者に対しあてその功績をたたえ、もって市民敬愛の対象とし、社会文化の興隆に資すること」を目的として、市長が市議会の同意を得て選定します。



ひらくしでんちゅう
故平櫛田中氏
(推挙：昭和47年10月1日)

明治5年～昭和54年、享年107歳。岡山県井原市出身。昭和45年小平市に転入。日本近代木彫界の巨匠として活躍された彫刻家。代表作には「鏡獅子」や「転生」などがある。日本美術院理事、日展顧問、日本芸術院会員、帝室技芸員、東京芸術大学名誉教授を歴任、昭和29年文化功労者として顕彰され、昭和37年文化勲章受章。



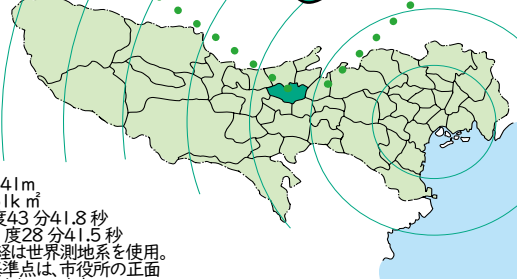
おがわ むつ ろう
故小川睦郎氏
(推挙：昭和57年10月1日)

明治34年～平成4年、享年91歳。中野区出身。昭和22年公選による初代小平町長。同37年市制施行に伴い、初代市長に就任、同42年までの戦後の復興期、経済成長期と変化の激しい時代を20年間にわたり、都市施設の充実、義務教育施設など、都市基盤の整備に尽力された。市長退任後、東京都議会議員、東京都選挙管理委員会委員長をつとめる。昭和48年勲四等旭日小綬章受章、平成4年従五位。



おおしま ういち
故大島宇一氏
(推挙：昭和61年10月1日)

明治41年～平成5年、享年84歳。茨城県下妻市出身。昭和26年から4期16年にわたり小平市(町)議会議員この間36年から6年間小平市(町)議会議長。同42年5月2代小平市長に就任。4期16年にわたり、都市基盤の整備、自然環境・伝統的風土の保全、老人・幼児・障がい者を軸とする市民福祉の充実に取り組み、人間性豊かなふるさと作りに尽力される。昭和58年正七位勲三等旭日中綬章受章、平成5年7月正五位。



標高：76.641m
面積：20.51km²
北緯：35度43分41.8秒
東経：139度28分41.5秒
※北緯、東経は世界測地系を使用。
小平市の基準点は、市役所の正面付近に設置されています。

市章



市章は「小平」を図案化したもので、小平市の安定性を線の太さで表し、平和と協調、発展の一途を両翼で象徴しています。

(制定：昭和34年11月22日)

人口：195,830人
(令和4年7月1日現在)

世帯数：95,120世帯

シンボルキャラクター



ぶるべー

ブルーベリー栽培
発祥の地こだいら
のシンボルキャラ
クター



こげらん

市の鳥こげらをイ
メージしたシンボ
ルキャラクター



地域宣伝隊 コダレンジャー

小平の観光資源であ
る「丸ポスト」「小平グ
リーンロード」「ブルー
ベリー」をモチーフにし
たヒーローキャラクター

小平市観光まちづくり大使

小平市では、小平市出身の方々に大使をお願いしています。大使の方々には、イベントへの参加や、自身の活動の中で小平市観光まちづくり大使の名刺配布などで小平市をPRしていただいています。



うえだ はつみ
上田 初美さん

小平市出身。女流棋士。2001年4月、12歳でプロ入り。2009年度には女流最多対局賞を受賞し、2011年5月には初タイトル「女王」を獲得した。2018年5月21日に女流四段に昇段。第2子の出産を挟みながらリーグ戦を全局戦った。



おおばやし もとこ
大林 素子さん

小平市出身。元バレーボール選手。現在はスポーツキャスターとして活躍。1985年に女子バレーボール全日本代表に選出され、ワールドカップで国際大会デビュー。ソウル、バルセロナ、アトランタの3回のオリンピックに出場している。



おおとり まゆ
鳳 真由さん

小平市出身。元宝塚歌劇団花組の男役。2005年3月『エンター・ザ・レビュー』で初舞台。『太王四神記』新人公演で、二番手役に抜擢され、一躍その存在がクローズアップされた。2016年7月『ME AND MY GIRL』で宝塚を卒業。



こばやし けんさく
小林 顕作さん

小平市出身。俳優、声優、演出家、脚本家、ダンサー。日本大学芸術学部在学中より数多くの舞台に出演。1996年より劇団「宇宙レコード」を主宰し、すべての脚本・演出・主演を担当している。NHK Eテレ「みいつけた!」のオフロスキー役でも活躍中。



むらかみ まい
村上 茉愛さん

市内小学校卒業。元体操競技選手。2021年の東京オリンピック個人種目別ゆかで、日本の女子で史上初となる銅メダルを獲得した。同年現役引退し、現在は日本体育大学のコーチとして、次世代を担う後進の育成に励んでいる。



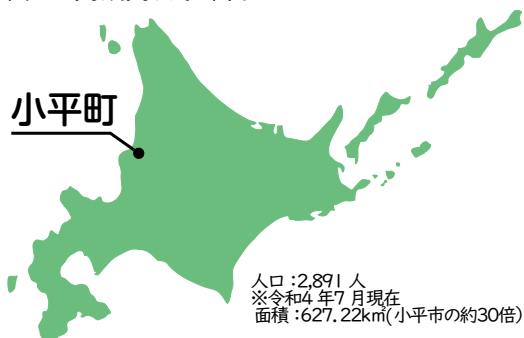
よしもと かずのり
吉本 一謙さん

小平市出身。元サッカー選手。ユース世代の日本代表に選出され、Jリーグでは、FC東京、FC岐阜、水戸ホーリーホック、アビスパ福岡、清水エスパルスに所属し、体を張ってあらゆるシュートコースを消す「全消し」の魂を持つ選手としても知られた。2020年12月に現役を引退。

姉妹都市 小平町 (おびらちょう)

(昭和53年7月1日締結)

小平市と北海道小平町(おびらちょう)は同名の自治体のよしみから、教育・文化・産業などでの交流と友好を深め、相互に発展することを目指しています。また、毎年交互に両市町の小・中学生がお互いのまちを訪ね、交流しています(少年少女交歓交流事業)。



人口:2,891人
※令和4年7月現在
面積:627.22km(小平市の約30倍)



小平町は北海道の北西部、日本海に面した美しい景観の町で、主な産物には、お米やアイポリーメロンなどの農産物に加えて、ほたて貝、かれい、なまこ、たこなどの海産物があり、多彩な味覚が自慢です。

イベントが目白押し 小平の1年

2月



3月



4月



5月



8月



- 1月
- ・新春歩け歩けのつどい
 - ・小平市消防団出初式
 - ・二十歳の集い

- 2月
- ・こだいら市民駅伝大会
 - ・小平よさこいスクールダンスフェスティバル
 - ・多摩六都ヤング・ダンスフェスティバル

- 3月
- ・小平めグルメウォーク
 - ・吹奏楽フェスタ

- 4月
- ・小平グリーンロード桜マルシェ
 - ・ハナテン春の花まつり
 - ・ふるさと村の花まつり

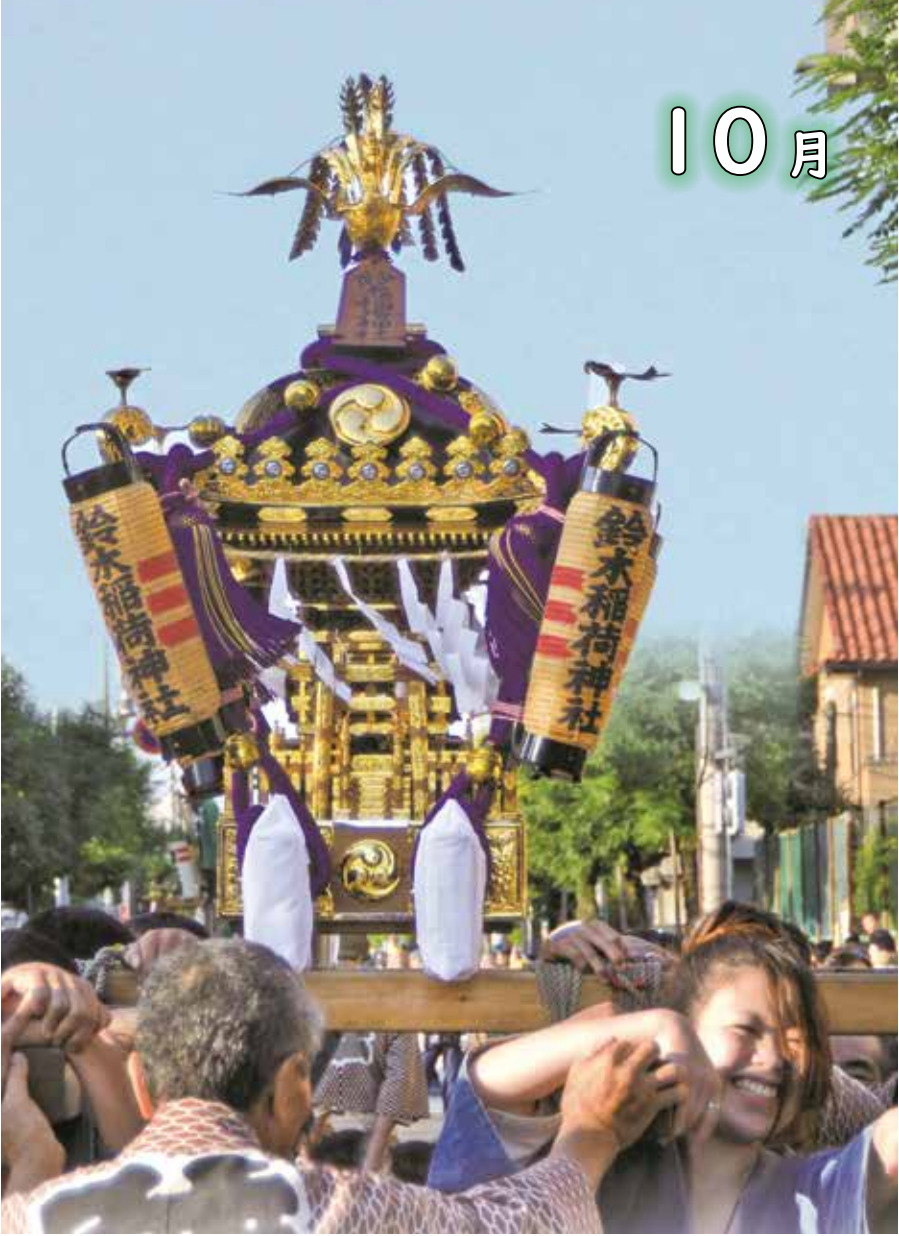
- 5月
- ・ごみゼロフリーマーケット
 - ・花と緑のこだいらガーデニングコンテスト
 - ・障がい者運動会
 - ・グリーンフェスティバル
 - ・バスとタクシーのひろば in 小平

- 6月
- ・あじさいまつり
 - ・ホテルの夕べ

- 7月
- ・花小金井サンバフェスティバル
 - ・市営プールオープン

- 8月
- ・小平グリーンロード灯りまつり
 - ・小平ブルーベリーまつり

10月



11月



12月



小平市ホームページからイベントを検索

小平市ホームページでは、その月ごとのイベント情報を見ることができます。また、キーワードや開催期間からイベントなどを探すこともできます。



9月 ・こだいら環境フェスティバル

11月 ・少年少女マラソン大会
・国際交流フェスティバル
・晩秋の小平グリーンロードウォークと収穫祭
・小平市産業まつり
・小平ご当地グルメコンテスト

10月 ・小平市民まつり
・小平ブルーベリーワインまつり
・市民スポーツまつり
・小平ぐるめぐりスタンプラリー
・小平市総合防災訓練
・元気村まつり

12月 ・みんなでつくる音楽祭
in 小平

四季を楽しむ



水のせせらぎと緑の風吹くまち

四季折々、自然いっぱいのまちを散策しませんか。小平には、水のせせらぎを感じる用水路、季節の花や新鮮な野菜などたくさんの緑が溢れています。

小平グリーンロード

グリーンロードは、玉川上水、狭山・境緑道、都立小金井公園を緑道で囲む全長約21kmの道です。桜並木、夏の涼しい木陰、いちじくの紅葉など季節ごとに美しい風景を楽しめます。(P.92)



オープンガーデン

オープンガーデンは、個人の庭を一般に公開する活動です。丹精こめた庭や花壇、季節の植物をぜひご覧ください。

小平グリーンロード&オープンガーデンマップ

グリーンロード沿いの見所紹介やオープンガーデンで咲く花の見頃の時期などが掲載されています。マップは、産業振興課(市役所1階)、こだいら観光まちづくり協会にあるほか、小平市ホームページからダウンロードもできます。



市内の公園

子ども向けの遊具や四季の花が楽しめるなど、市内には多くの公園があります(P.92)。公園一覧は、小平市ホームページからご覧になれます。



あじさい公園



天神じゃぶじゃぶ公園



たけのこ公園



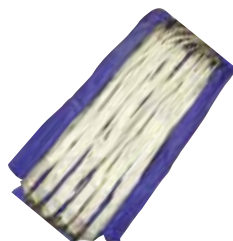
主な特産品



ブルーベリー
小平は、ブルーベリー栽培発祥の地です。市内にはブルーベリーの摘み取り農園や、美味しい加工品を販売するお店がたくさんあります。



梨
小平梨は都内有数の生産量を誇ります。主な品種は幸水・豊水・新高などです。



東京うど
江戸時代から作られている伝統の高級野菜です。地中深くうど室（むろ）を掘り、太陽の光を当てずに育てます。小平は都内有数の生産量を誇っています。

獲れたて 小平産農産物

小平は、市内の約8%が農地で、様々な種類の農産物が作られています。生活の身近な場所で野菜が作られているため、新鮮な農産物を味わうことができます。

農産物の直売所

小平産の野菜や果物は、市内にある農産物直売所で販売しています。また、JA 東京むさし小平ファーマーズ・マーケットでは市内産の新鮮な野菜を多く取りそろえています。(P.96)

直売所マップ

畑で収穫した新鮮な農産物を販売している直売所を調べることができます。マップは、産業振興課（市役所1階）、こだいら観光まちづくり協会にあるほか、小平市ホームページからダウンロードもできます。



農業体験ファーム

農家さんから本格的な野菜作りを学び、育てた作物の収穫体験ができる農園です。種まきから収穫・後片付けまで、年間を通して農作業を体験し、収穫した野菜は、すべて利用者が受け取れます。農園ごとに育てる作物や、体験できる内容が異なります。



問合せ 産業振興課 ☎ 042(346)9533

コダイラブランド

コダイラブランドは、小平商工会が小平の街にふさわしい商品として認定したものです。すべての商品は、小平商工会ホームページからご覧になれます。



文化・芸術にふれる



ふるさとこだいらの原風景 小平ふるさと村

小平は、江戸時代初期の玉川上水の開通に伴い開発された新田村落です。かつては、青梅街道や東西に走る各街道沿いに農家が並び、街道をはさんで南北には短冊型の畑が続いていました。市では、かつて農村だった時代の郷土文化を後世に伝えていくために、小平ふるさと村を開村しました。(P.90)

3つの時代の建物

小平の江戸初期から中期の建物を復元した開拓ゾーン、江戸後期の建物を復元した農家ゾーン、明治以降の近代ゾーンがあり、時代を追って建物の見学ができます。



年中イベント

ふるさと村では、農村だった時代に家庭などで行われていた行事などを季節ごとに行っています。

詳しくは、ホームページをご覧ください。



まゆ玉飾りの展示



小平ちよっと昔

『小平ちよっと昔』は、小平の昔話や伝承、文化などをまとめた本です。小平民話の会の方の協力で、実際に小平に住んでいた人の話を編集して掲載しています。

本は、小平市立図書館、市政資料コーナー(市役所1階)で読めます。また、小平市ホームページでは、市報(1月1日号)で掲載された「小平ちよっと昔」を読むことができます。



小平の郷土料理 糧うどん

小平糧うどんは、冷たい盛うどんを温かいつゆで食べる郷土料理です。小平は、昔から水の乏しいところでたんぼはほとんどなく、主にヒエ・アワ・小麦などの穀類が耕作されていました。そして、正月や、彼岸、盆、そのほか人が集まる日には、畑で収穫した麦などの地粉で手打ちうどんを打つ習慣がありました。

糧うどんの販売

小平ふるさと村では、小平産の地粉を使った「小平糧うどん」を土曜・日曜日、祝日を中心に50食限定で販売(1食500円)しています。

ところ 天神町3-9-1

HP検索 小平ふるさと村

問合せ 小平ふるさと村 ☎ 042(345)8155





日本を代表する彫刻家の作品を展示 小平市平櫛田中彫刻美術館

日本近代彫刻界の巨匠、平櫛田中（ひらくし でんちゅう）が最後に暮らした家を保存し、昭和 59 年 10 月に記念館を開館しました。その後、平成 6 年 2 月に、貴重な木彫作品を展示する展示館を新築し、2 館併設の美術館となっています。（P.90）

緻密さと躍動感あふれる作品

平櫛田中は、日本の伝統彫刻に西洋の写実的表現を取り入れた、木彫家です。田中が作る作品は、躍動感や感情など、現実には見る事ができない「理想の姿」を表現し、見る者の心を打つ作品を多く残しています。



ガイドによる作品解説

ボランティアのガイドによる作品の解説を定期的に行っています。



ところ 学園西町1-7-5
問合せ 平櫛田中彫刻美術館 ☎ 042(341)0098

平櫛田中彫刻美術館のイベント

平櫛田中と関係の深い作家の作品紹介を中心とする特別展や、田中芸術への理解が深められるような企画・展示を行っています。また、春と秋のお茶会なども開催しています。ホームページからイベントの情報をご覧になれます。



春のお茶会

小平を巡る



丸いポストのまち

小平には、都内の自治体で最も多くの丸ポストが残っています。かつて、丸ポストから現在の箱型ポストに変わっていく頃、ポスト更新の意向を丸ポストを設置している商店に確認したところ、「愛着のある丸ポストのままが良い」と答えた方が多かったからだそうです。どこか懐かしい風景を残す丸ポストを、探してみませんか。



丸ポストを巡るイベント

市内で見つけた丸ポストの数を競う、「丸ポストロゲイニング」や「丸ポストのある風景フォトコンテスト」など、丸ポストに関連したイベントも行われています。

日本一丸ポスト

ルネこだいら（美園町1-8-5）の前には、高さが2.8mで大きさが日本一の巨大丸ポストが設置されています。

日本一丸ポストは、丸ポストが好きな市民や商店などが一緒に作り上げました。図面を手作りすることから始め、材料に土管や中華鍋を使ったり、取り出し口の扉が割れないように中に鉄板を入れたり、さまざまな工夫が施されています。



小平丸ポストマップ

ガスミュージアム前の丸ポスト

ガスミュージアムには、かつて市内の郵便局で使われていた丸ポストが移設されています。ミュージアムの建物と丸ポストが合わさった景色は、明治初期の風景を漂わせています。

ガスミュージアム（大沼町4-31-25）は、東京ガスの事業の歴史とくらしとガスの関わりを紹介する歴史博物館です。



まち歩きを楽しむ

こだいら観光まちづくり協会

こだいら観光まちづくり協会では、ガイドが解説をしながらまちを歩く「まち巡り」を行っています。歴史や地理などの視点で小平を学ぶことができます。また、小平丸ポストマップや、小平「まち巡り」ガイドブックなどの情報冊子も多くあります。

ところ 学園東町1-16-1

HP検索 フラットナビ 小平にこないか



小平「まち巡り」ガイドブック

玉川上水を歩き疲れたら こもれびの足湯

ごみ焼却施設から発生する余熱を利用して、地下から汲み上げた天然水を温めて足湯にしています。

3月～9月・・・午前9時30分～午後4時30分
10月～2月・・・午前9時30分～午後4時

※定休日は毎週木曜日（祝日の場合は翌日以降休日を除く直近の平日）。

ところ 中島町3番5号（西武線東大和市駅徒歩10分）

HP検索 小平・村山・大和衛生組合 足湯情報



選手を応援

FC東京小平グランド

小平には、FC東京の練習グランドがあります。FC東京は、サッカー教室の開催や選手が市内のイベントに参加するなど、小平にとって身近なプロサッカーチームです。練習グランドでは、選手たちの練習を見学できるほか、練習後にはファンサービスがあり、選手と交流することができます。練習日程などは、FC東京ホームページをご確認ください。

FC東京小平グランド

ところ 大沼町 3-12-1 (小平駅北口 徒歩 20 分、駐車場はありません)
HP 検索 FC 東京



練習を見学

練習中は、選手の掛け声や励まし合う声、監督からの指示などが聞こえ、試合中とは違った選手たちの表情を見ることができます



練習後のファンサービス

練習後は、選手と記念写真やサインをもらうことができます。選手に実際に会って、応援しませんか。



下水道管の中に入れる施設

小平市ふれあい下水道館

下水道の役割や仕組み、歴史などの展示や、大型モニターで汚水をきれいにする微生物を観察することができるなど、下水道の大切さを楽しく学ぶことができます。(P.90)

また、日本で唯一、実際に使われている下水道管の中に誰でも自由に入ることができます。イベント情報など、詳しくは、小平市ホームページをご覧ください。

ところ 上水本町 1-25-31

問合せ ふれあい下水道館 ☎ 042(326)7411



展示室

下水道の歴史やわたしたちが生活する中で排出された汚れた水がどのようにしてきれいになるかを学ぶことができます。



下水見学

内径4.5m、地下25mに敷設された本物の下水道管の中に入り、実際に流れている下水の色やにおいを体験できます。



小学生向けのイベント

顕微鏡で汚水をきれいにする微生物の観察や工作など、小学生が楽しめる内容の学習講座を月1回開催しています。



微生物キャラクター
ヒルガツムちゃん

東京ドロンパマンホール蓋を探そう

小平市では、FC東京と共同でチームマスコットの東京ドロンパをメインキャラクターとしたデザインマンホール蓋を5種類制作しました。小平駅南口やふれあい下水道館内をはじめ、市内8か所に設置してあります。マンホールマップは、ふれあい下水道館にあるほか、右図のQRコードからダウンロードもできます。



小平の成り立ち

開拓（江戸時代）以前

小平の地は、承応3年（1654年）に玉川兄弟が玉川上水を完成させるまでは、「逃げ水の里」とさえ言われるほど水の便に乏しく、住む人もない荒野であったと考えられていました。

ところが、昭和44年に小平第八小学校の校庭から奈良時代から平安時代にかけて古代人が使用したとされる土器片が出土し、その後の調査では住居跡が発見されました。また、昭和49年の鈴木小学校建設工事中に旧石器時代の遺跡が確認され、小平の歴史は3万8千年前までさかのぼりました。

石神井川の水源

鈴木小学校周辺は低地で、かつてはこの周辺に石神井川が流れていて水があったことがわかってきました。現在の鈴木小学校には、石神井川の名残りとして地下から水が湧き出ています。



鈴木小学校のわき水

開拓時代（江戸時代）

小平の開拓の歴史は古く、350年以上前にさかのぼります。

徳川家康によって幕府が開かれてから、江戸周辺では人の往来も多くなり人口もしだいに増加していきました。江戸の人口の増加とともに、水の需要も増え、井の頭から水を引いた神田上水をはじめ、玉川上水などが造られました。しかし、江戸に比べ、小平周辺は住む人もなく荒涼とし、旅をするにはたいへん困難な場所でした。こうしたなかで、明暦2年（1656年）、小川九郎兵衛によって小川村（現在の小川町1・2丁目、中島町、栄町、小川西町1～5丁目、小川東町、小川東町1～5丁目、たかの台、津田町1～3丁目、学園西町2・3丁目、学園東町1丁目の一部）が開拓されました。さらに享保年間（1716～1736年）には小川新田、大沼田新田、野中新田与右衛門組、野中新田善左衛門組、鈴木新田、廻り田新田と次々に開拓されました。

鈴木遺跡資料館

国指定史跡・鈴木遺跡から出土した旧石器時代の局部磨製石斧のほか多くの貴重な資料を展示・公開しています。（P.22、P.90）

小平市ホームページから、鈴木遺跡の発掘作業の解説や、江戸時代などの鈴木遺跡周辺の様子 of 解説を見ることができます。



鈴木遺跡の水車跡

昭和49年の鈴木小学校建設中、大きな溝の痕や不思議なトンネルが見つかり、調べると江戸時代の水車跡だということがわかりました。その後の発掘調査で旧石器時代の遺物が発見されました。

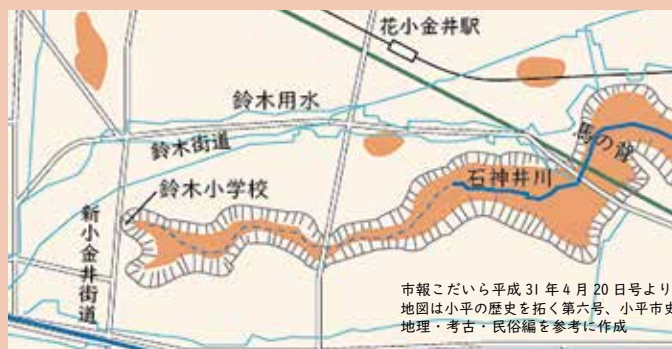


発掘された水車の水路跡

国防用の火薬製造水車

鈴木遺跡（現在の鈴木小学校周辺）には、江戸時代後期から明治時代にかけて水車が稼働していました。この水車は、小麦などをひく水車でしたが、江戸時代末期の黒船来航後、国防のためにお台場に設置された大砲用の火薬を作る水車として使われることとなります。

火薬は、木炭、硫黄、硝石をひいて混ぜた黒色火薬です。火薬の原料は硬く、強力な水車の力、水輪を回す水の力が必要でした。鈴木遺跡のある場所には、玉川上水からの水、巨大な水輪を回すための水を落とす段差、落ちた水を流す石神井川のかつての水源部がありました。この地形のおかげで約6m60cmと、三階建ての建物ほどの巨大な水輪が回る水車を作ることができました。しかし、火薬製造水車はわずか10か月ほどで爆発し、周辺の農家から「危ないから止めてほしい」と言う訴えて、もとの粉ひき水車に戻りました。



市報こだいら平成31年4月20日号より
地図は小平の歴史を拓く第六号、小平市史
地理・考古・民俗編を参考に作成



約3万8千年～1万6千年前の旧石器時代の遺物を展示しています



鈴木遺跡で見つかった黒曜石の産地分析の結果も展示しています。

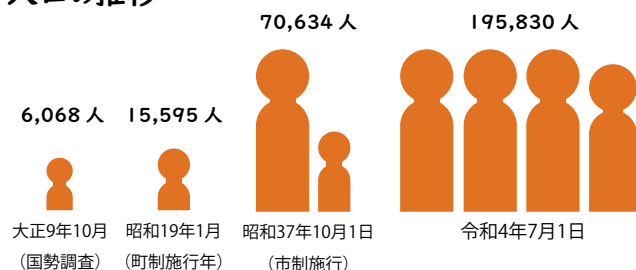
小平村の誕生

武蔵野の新田村として成立した7つの村が、明治22年4月1日に市制・町村制の施行により合併して「小平村」となりました。村名は、この地域が「平」な地形で小川村が最初の開拓村であることから、「小」をとって「小平」としたという古老の話が残っています。東京市の目覚ましい発展に伴って交通もしだいに便利になっていきました。明治22年には、甲武鉄道（現・JR中央線）新宿－立川間が開通。明治27年には川越鉄道（現・西武国分寺線）国分寺－東村山間が開通し、小平に初めて小川駅ができました。昭和2年西武鉄道（現・西武新宿線）高田馬場－東村山間が開通。昭和3年には多摩湖鉄道（現・西武多摩湖線）国分寺－萩山間と萩山－本小平（小平駅の南西隣にあった）間が開通し、人の往来が容易になりました。

大正10年ごろから、土地会社による大学を中心とした学園都市を造る計画が進められ、関東大震災後に小平学園60万坪（198ヘクタール）の買収が始められ、住宅地域へ変わっていくきっかけとなりました。その後、女子英学塾（現・津田塾大学）、東京商科大学予科（現・一橋大学小平国際キャンパス）、農林省獣疫調査所小平分室（現・独立行政法人動物衛生研究所）などの公共施設が設けられました。

昭和15年以降になると傷痍軍人武蔵療養所、東部国民勤労訓練所、陸軍経理学校、陸軍技術研究所、陸軍兵器補給廠小平分廠などの軍用施設が設置され、勤める人の住宅も建てられました。

人口の推移



小平町の誕生

昭和19年1月1日当時の人口は、15,595人でした。そして、終戦も間近い昭和19年2月11日に「小平町」となりました。

昭和20年8月15日、太平洋戦争が終結した後、小平は農村から住宅都市へ、大きく変わっていきます。

東京区部の住宅難に伴う人口の流入と、都営住宅の建設や一般住宅の増加が著しく、また工場の誘致によって、小平もだんだんと都市化しました。昭和30年の国勢調査では、人口の産業構成の都市的業態が、すでに60%以上になっていました。一方、行政需要の高まるなかで、大工場の誘致と人口の増加によって財政もしだいに好転し、昭和32年ごろから予算も1億円を突破するまでになりました。

小平市の誕生

昭和35年の国勢調査で、人口が52,923人と発表され、「市」としての要件も整いました。住民の福利増進と、将来における小平の発展と繁栄を図るため、市制施行を決意し、昭和37年10月1日、全国で558番目、東京都で11番目の「市」として誕生しました。このときの人口は、70,634人（昭和37年10月1日）でした。



昔の小平の様子を写真で

こだいらデジタルアーカイブ

郷土写真など、昔のこだいらを画像で見ることができます。小平市史や小平市に関する写真資料、絵図などをデジタル化して公開しています。学習や調査・研究に、ぜひご活用ください。

HP 検索 こだいらデジタルアーカイブ

問合せ 中央図書館 ☎ 042(345)1246



昭和44年 現在のあかしあ通りから見た小平駅南口

